

(5) 小・中学校間の積極的な連携

指導の連続性を保つために、定期的に小・中学校の教員が集まり、教科指導について情報交換を行います。単元の内容によっては、中学校教員が教科の専門性を生かした授業を行い、系統を意識した授業や中学校に向けて小学校のうちに育てておきたい力を共通理解します。また、小学校教員からは、一人一人にきめ細やかに支援をする方法や授業構成について共有し、職員全体のスキルアップをとおして学力向上へとつなげていきます。



(6) 小中学校共通の学習ルールを設定

9年間の学びの連続性を図るためにも、小・中学校共通の学習ルールを設定します。

(例) 小中学校共通の学習ルール

- (1) 授業に必要なもの(教科書・ノート・準備物等)を用意します。
- (2) チャイムは着席・整列した状態で聞きます。
- (3) 学習に必要なものは机に出しません。
- (4) 教師や友達の話をよく聞きます。
- (5) 教師や友達に自分の考えがわかるように話します。
- (6) ノートは丁寧な字で、正確に書きます。

基礎期…ひとまずに一文字を書きます。  
 充実期…自分の考えだけでなく、友達の参考になる考えをノートに書きます。  
 発展期…図や表などを用いて自分の考えを書きます。

- (7) 安全に気をつけて活動します。

君津市教育委員会学校教育課

〒299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号

TEL 0439-56-1410 FAX 0439-56-1627

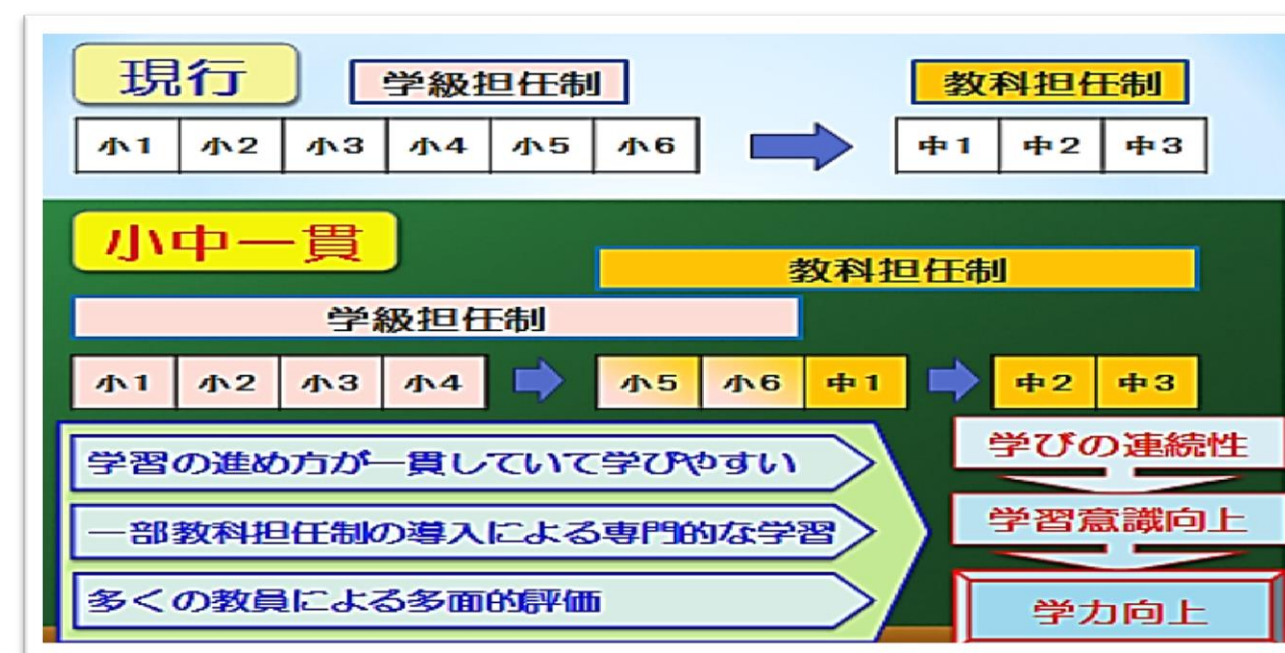
君津市教育委員会

# 君津市小中一貫教育

## 1 君津市小中一貫教育

「君津市小中一貫教育」では、「学び」と「育ち」の連続性のもと、義務教育9年間で一貫性のある学習指導や生徒指導を行い、一人一人に応じたきめ細やかな市立学校教育の実現を目指します。

【9年間を一貫した「学び」をとおして】



○小・中学校全ての教職員が9年間の連続性のある教育課程のもと、系統性を意識した学習指導や共通の指導方法について理解を深め学力向上を図ります。

【9年間を一貫した「育ち」をとおして】

○義務教育9年間を通した子供の理解を一層充実させることにより、いじめや不登校など、子供の心情にかかわる今日的な課題解決にあたります。

【教職員の連携をとおして】

○指導の連続性を保つために、定期的に小・中学校の教員が集まり、教科指導や生徒指導についての情報交換を行います。単元の内容によっては、中学校教員の専門性を生かして交流授業を行うなど授業の進め方について共通理解を図ります。

## 2 「学び」と「育ち」の連続性を図るために

### (1) よりよい発達区分

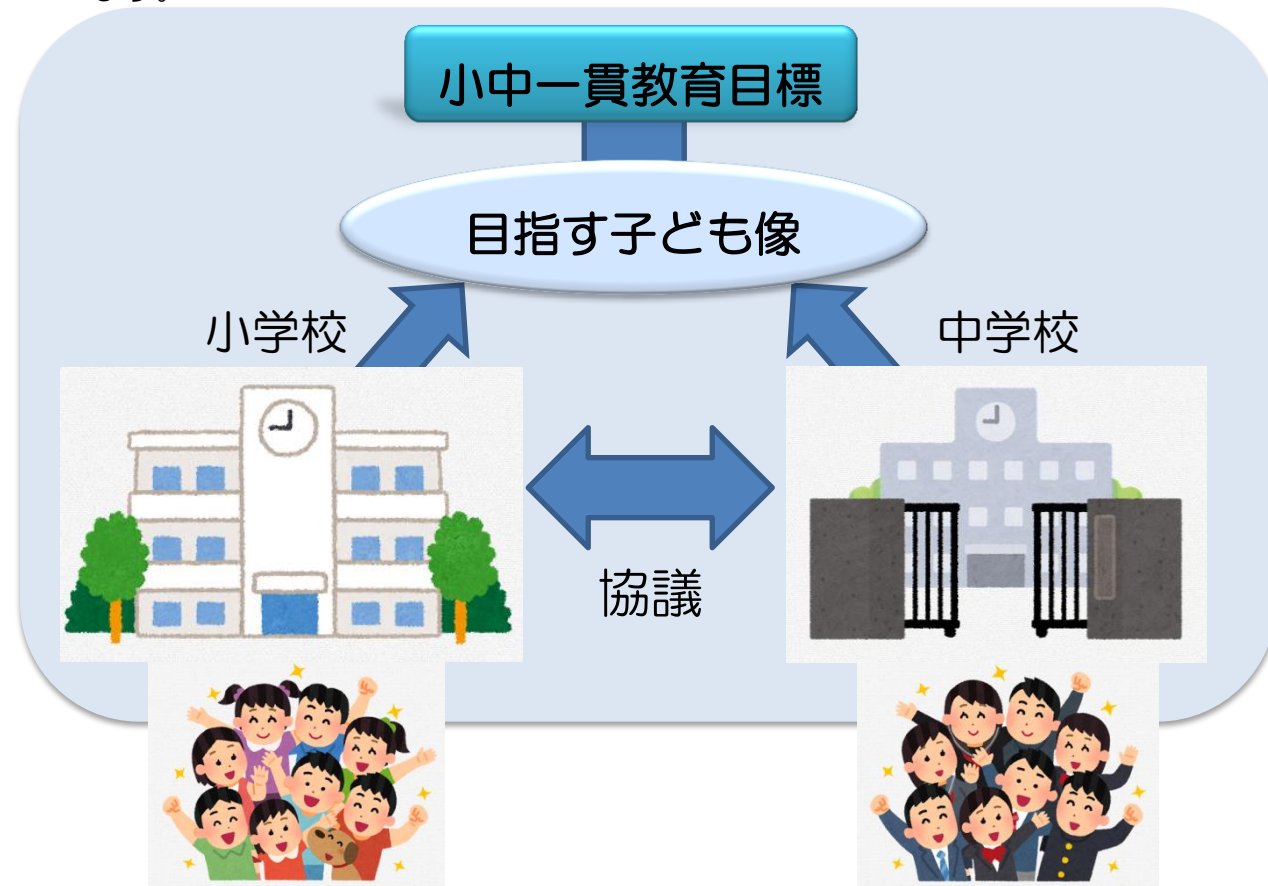
義務教育9年間を児童生徒の発達段階に着目して、君津市小中一貫教育では、「学び」と「育ち」の連続性を「4・3・2」の3つの時期に分け円滑に図れるようにしていきます。特に「中1ギャップ」や「小学校5年生から学習内容が増え学習につまずきが見られる」という現状から、「充実期」に重点をあてて小・中学校教員が連携をとって指導にあたります。



前期				中期			後期	
基礎づくり期				充実期			発展期	
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
基礎・基本の定着を図る時期				基礎づくり期を基に基礎・基本の拡充を図る時期			充実期を基に身に付けた力の発展・充実を図る時期	

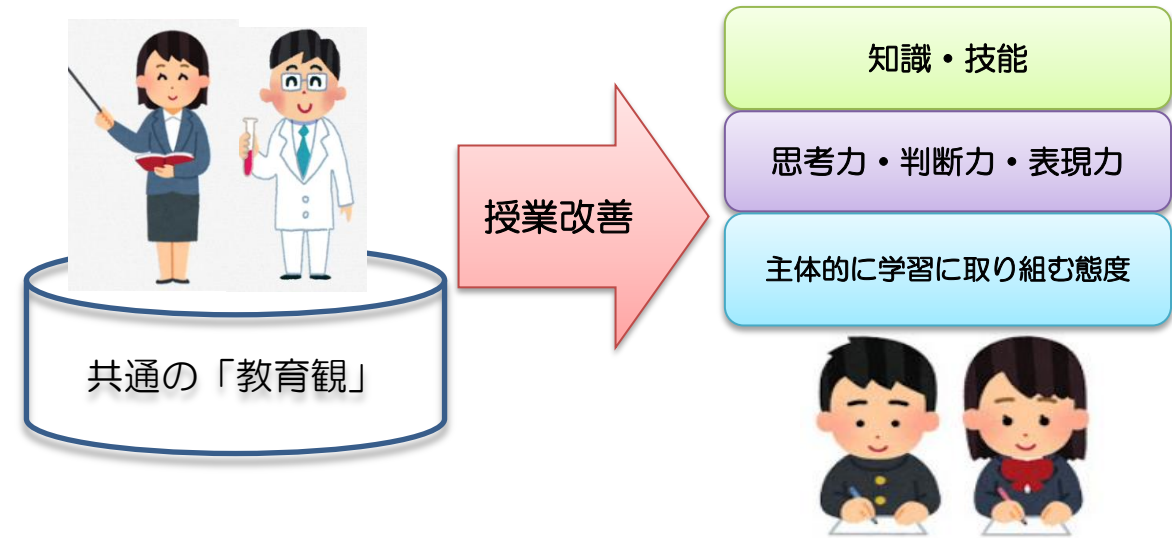
### (2) 小中一貫教育目標の設定

小・中学校間で地域の子どもの状況の共通理解したうえで、学校間での協議を経て、小・中学校9年間での「小中一貫教育目標」、「目指す子ども像」を設定します。



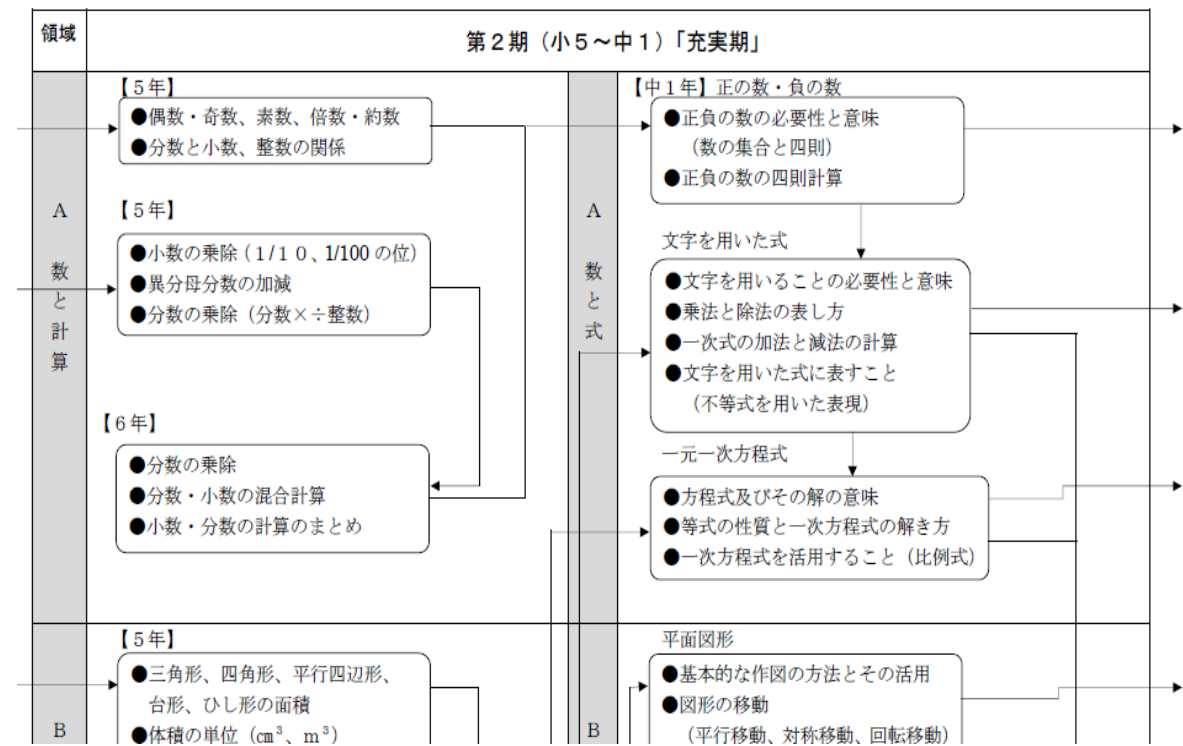
### (3) 「教育観」の共有

小・中学校の教員が、「学力観」・「指導観」・「評価観」等の「教育観」を共有することにより、指導の一貫性を図ります。これにより、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けるために、一層の授業改善を推進します。



### (4) 学習の系統を活かした授業計画

各教科の学習計画を立てるにあたり、学習の系統を参考にし、児童生徒の実態を把握した上で授業計画に反映させます。



(君津市小中一貫カリキュラム 算数科・数学学習系統一覧より)